

武漢肺炎の現状 (1月23日 現在)
WHO、CDC、ECDCの情報から

大阪府健康医療部保健医療室
医療対策課
田邊 雅章

1

コロナウイルスについて

- 人間やさまざまな動物（鳥や哺乳類を含む）に感染することが知られている。
- 動物および人にコロナウイルスが感染すると、風邪のような症状を呈する。稀に呼吸器症状が悪化する場合がある。
- ヒトに感染を引き起こすコロナウイルスについては、計6種類が知られ、2002年にSARS（重症急性呼吸器症候群）、2012年にMERS（中東呼吸器症候群）の原因となるコロナウイルスが発見。MERSとSARSコロナウイルスについては、動物由来の感染症である。

2

人に感染するコロナウイルスの特徴

	ヒトコロナウイルス (SARS-CoV-2)	SARSコロナウイルス	MERSコロナウイルス
病名	風邪	SARS (重症急性 呼吸器症候群)	MERS (中東呼吸 器症候群)
宿主動物	ヒト	キクガシラコウ モリ	ヒトコブラクダ
主な症状	鼻炎、上気道炎、 下痢	高熱、肺炎、下 痢	高熱、肺炎、下 痢、腎炎
潜伏期	約2から4日	2から10日	2から14日
重症化	通常、重症化し ない	糖尿病等の慢性 疾患、高齢者に て重症化リスク あり	SARSと同様
死亡率	ごく稀	約9.6%	約34%

3

新規コロナウイルス (2019-nCoV) の経過について

- 2019年12月31日、中国湖北省武漢市の武漢市保健委員会が、武漢の華南水産卸売市場に関連した7つの重篤な症例を含む27の原因不明の肺炎患者の集積を報告。
- 症例は、発熱、呼吸困難、胸部レントゲン写真の両側肺浸潤など、いくつかの感染性呼吸器疾患に共通する臨床的特徴を示した。
- 当局は、すべての症例を隔離し、接触追跡活動を開始。
- 2020年1月1日、市場を閉鎖し、消毒などの対応を開始。
(当該市場以外は、継続して営業)

➡ 12月31日に発症の集積を考えると、12月17日から1月1日までは、この市場による感染危険性はあった。

Ecdc:Rapid Risk Assessment: Cluster of pneumonia cases caused by a novel coronavirus, Wuhan, China, 2020 Risk assessment 17 Jan 2020

4

新規コロナウイルス（2019-nCoV）の経過について

- 2020年1月9日、中国CDCは、新規コロナウイルス（2019-nCoV）が肺炎59例のうち15例の病原体として検出されたことを報告。その後、GeneBankデータベースに登録
- 予備的な分析では、SARSと類似したウイルスであるとしている。
- 2020年1月11日、2019-nCoV感染の症例の最初の死亡が報告（61歳の男性（がん、慢性肝疾患の既往あり）で肺炎、呼吸不全にて死亡）
- 2020年1月16日、2例目の死亡報告あり（69歳男性（陳旧性肺結核？の既往）、心筋炎、腎不全、多臓器不全にて死亡）

Ecdc: Rapid Risk Assessment: Cluster of pneumonia cases caused by a novel coronavirus, Wuhan, China, 2020 Risk assessment 17 Jan 2020

5

新型コロナウイルス感染症の発生状況について WHO SITUATION REPORT - 2 22 JANUARY 2020

	検査診断例
中国全土	309
湖北省（武漢市）	270
湖北省以外	38
日本	1
台湾	1
韓国	1
タイ	2

湖北省以外の広がり、広東省（深圳市）17、北京5、浙江省（杭州市）5
武漢以外の患者については、ほぼ武漢での滞在歴が確認されている

6

新型コロナウイルスの致命率

新型コロナ ウイルス	MERSコロナ ウイルス	SARSコロナ ウイルス
約1.9%	約34%	約9.6%

レポートによると、武漢市内270例中、死亡6例、
重症51例、重篤（ICU管理）12例
武漢市以外からの死亡、重症例の報告は現時点でなし

Novel Coronavirus (2019-nCoV) SITUATION REPORT - 2 22 JANUARY 2020 WHO

7

新型コロナウイルス肺炎の二次感染について

- 数例の家族内感染が確認されている。
- 武漢において、院内感染とみられる16名の医療従事者での感染事例あり
- 日本の症例については、急性呼吸器症状を呈した患者との接触歴のみあり
- 現時点では、限局的な人→人感染のみ確認されている

Outbreak of acute respiratory syndrome associated with a novel coronavirus, Wuhan, China; first update 22 January 2020 ecdc

8

中国、日本における接触者調査の状況

- 1月17日のECDCのレポートによると、763人に健康監視が実施され、644人が経過観察終了。119人が監視継続。1月17日、現在、接触者からの発病はなし
- 1月22日のECDCレポートでは、1739人に健康監視、817人が経過観察終了。922人が監視継続。1月17日と同様に発病なし
- 1月16日で日本で確認された1例目については、1月22日現在、接触者として健康監視となっている人が15名、全員、健康状態に異常なし

Outbreak of acute respiratory syndrome associated with a novel coronavirus, Wuhan, China; first update 22 January 2020 ecdc

9

潜伏期間について

- 現在の流行で観察された平均潜伏期間は7日であり、範囲は2~12と推測
- ECDCのコメントでは、SARS-CoVおよびMERS-CoVからみると、2~7日間および最大14日間の潜伏期間としている

Outbreak of acute respiratory syndrome associated with a novel coronavirus, Wuhan, China; first update 22 January 2020 ecdc

10

まとめ

- 武漢の市場（生きた動物などを売買）に関連した新型コロナウイルス感染症である→MERS、SARSと同様の動物由来感染症の可能性が高い
- 発症の原因と想定された市場については閉鎖後、消毒対応はしているが、動物内での新型コロナウイルス感染の拡大があった場合には武漢市内の他の市場に関連した発症も想定されているようではある。
- WHO、ECDC、CDCの見解では、1月23日現在、限局的な人→人感染は確認されているが、3次感染、4次感染といった感染の拡大は確認されていない→現時点では、濃厚接触（同一時間を長い間過ごし2m以内に近づくであろう家族や患者を治療するために患者と接触する医療従事者）でしか感染しないのでは
- 院内感染対策をしっかりしていれば、医療従事者での感染はない

11

新型コロナウイルス関連肺炎の疑い例に対する 感染対策(1月23日現在)

急性呼吸器感染症患者の診察時には標準予防策、つまり呼吸器症状を呈する患者本人には必ずサージカルマスクを着用させ、医療従事者は、診察する際にサージカルマスクを含めた標準予防策を実施していることを前提とする。そのうえで、上記（ア）、（イ）、（ウ）のいずれかの曝露歴のある患者を診察する場合、
Ⅰ 標準予防策に加え、接触、飛沫予防策を行う。
Ⅱ 診察室および入院病床は個室が望ましい。
Ⅲ 診察室および入院病床は十分換気する。
Ⅳ 患者の気道吸引、気管内挿管の処置などエアロゾル発生手技を実施する際には空気感染の可能性を考慮しN95マスク、眼の防護具（ゴーグルまたはフェイスシールド）、長袖ガウン、手袋を装着する。
Ⅴ 患者の移動は医学的に必要な目的に限定し、移動させる場合には患者にサージカルマスクを装着させる。

12